

令和 2 年 6 月 22 日現在

機関番号：23304

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03415

研究課題名(和文) 語史再構における言語地理学的解釈の再検討 類型的定式化の試み

研究課題名(英文) Rethinking the geolinguistic interpretation in the linguistic reconstruction

研究代表者

岩田 礼 (Iwata, Ray)

公立小松大学・国際文化交流学部・教授

研究者番号：10142358

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、言語地理学が言語史を再構成するための有力な手法であるとの認識に立ちながら、従来指摘されてきた方言地図解釈の恣意性を克服するために、日本、中国、フランスの方言地図を素材として、いかなる条件があれば当該現象が生起するかという変化の一般性、普遍性を帰納することをめざした。“対照言語地理学”と呼んだこの手法には、類音牽引、同音衝突、混淆の現象を異なる言語の方言地図を素材に比較するPhenomenon-basedの対照と、特定の語彙項目を比較するItem-basedの対照がある。研究成果は、期間中に開催された2度の国際会議において、本研究グループとしての成果を発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

都市化と標準語の普及が進む今日、方言研究の主流は社会言語学、都市方言学に向かっているが、本研究は敢えて伝統的農村方言を対象とする言語地理学をテーマとして、日本、中国、フランスの方言地図を対照的観点から比較することによって、語史再構成の一方法としての言語地理学の有効性を再検討した。語はなぜ、どのように変化するか？これは古くて新しい課題であり、近年の国際的研究では変化の動機(motivation)に焦点が当てられている。本研究では日本及びヨーロッパでの研究蓄積を基礎としながら、研究代表者が進めてきた中国語方言に関する研究成果を取り入れ、言語変化の普遍性と個別性を解明しようとした点に意義がある。

研究成果の概要(英文)：In this project, we have endeavored to compare and analyze the linguistic maps of three genetically unrelated languages, Japanese, Chinese and French, thereby finding out if any common mechanism is at work across these languages involving specific lexical changes. This method is referred to as "Contrastive Geo-linguistics". The target of our analysis includes two types: phenomenon-based type and item-based type. The former type focuses on one specific geo-linguistic phenomenon, e.g., homonymic collision or phonetic attraction. This type, excluding the differences of lexical item and area size from consideration, compares the maps of different languages which exhibit the same pattern of distribution, such as AB and ABA distribution. The latter type compares the maps of one specific lexical item shared by these three languages, e.g., snake or corn. The fruits of this study were presented at the two international conferences held in 2018 and 2019.

研究分野：言語学

キーワード：言語地理学 言語史 対照 類型的定式化 類音牽引 同音衝突 混淆 地理的分布

様式 C-19、F-19-1、Z-19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

方言という人の生活に根差した対象を研究する目的はもとより一様ではない。20世紀初頭、J.Gilliéronらによって創設された言語地理学は、当初から比較言語学の定式化された言語史再構に対するアンチテーゼとして位置づけられ、語史の再構を目的とした。日本では、この潮流が戦前から紹介され、また柳田国男『蝸牛考』の周圏論が一般にも幅広い影響を及ぼしたこと、さらに、戦後まもなく来日した W.Grootaers の影響もあって、言語地理学を言語史研究の一方法とする見解(柴田武 1969)は、国立国語研究所『日本言語地図』(LAJ, 1966-1974)の作図にも強く反映されている。

しかしながら、語史再構は、「辺境に古語が残存する」というような単純なテーゼでは到底なしえない。それは語の変化を引き起こす要因(民間語源、類音牽引、同音衝突、語の接触と混淆、過剰修正など)が言語を取りまく様々な環境の下で、“きまぐれに”発動されるためである。このことは方言地図を作成し、解釈する営みを経験した方言学者が一様に直面した困難であった。畢竟、方言地図の解釈は一通りではないことになる。言語地理学が伝統方言の衰退とともに、統計処理と数値化を手段とする社会言語学にとって代わられたのも必然の趨勢であった。

ヨーロッパと日本の言語地理学が同様の栄枯衰勢をたどる一方で、中国の方言学会は1990年代まで“方言区画”一色であった。それが、W.Grootaers (2003)など海外からの影響もあって、2008年には最初の項目別全国地図集である曹志耘主编『漢語方言地図集』が出版され、翌年に日本で出版された岩田礼編『漢語方言解釈地図』(その続集は2012年出版)の影響もあって、言語地理学的研究は急速に広がりを見せている。

このような状況下で、すでに豊富な経験を有する日本とフランスの言語地理学の成果と遅れて参入した中国の成果を結合させ、改めて語史再構の一方法としての言語地理学を見直してみようということになった。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、語史再構のための一方法である言語地理学の地図解釈について、解釈の恣意性を克服する手段として“対照言語地理学”(contrastive geo-linguistics)を提唱し、それを実践することを目的とした。言語地理学の地図解釈に自然科学のような演繹的な検証性を求めるのは不可能である。このことを前提に為し得ることは、「地図上である分布が観察され、ある条件が与えられれば、言語を問わず一定の変化が起こりうる」という経験則をしっかりと定式化することである。そのため、本研究では、中国、日本、フランスの方言地図を対象として対照的検討を積み重ね、変化の類型を帰納することで地図解釈の定式化をめざした。

(2) 対象とした三言語の方言調査データに基づき、通言語的な対照言語地図を作成する。この作業を通じて、(1)同音衝突、類音牽引、混淆、過剰修正等の現象が生起させる条件、(2)“隣接分布”を形成する異なる語形の成因、(3)方言伝播と非言語的要因との関係、これらの類型化とそれに基づく解釈の定式化を図る。地図解釈の検証手段として、文献語彙史、経年調査及び数量的な標準語出現度を参照する。

(3) 日本の言語地理学をリードした先達のうち、柴田(1969)、馬瀬(1992)はまさしく解釈の客観性を追求し、定式化しようとした試みであった。本研究では特に馬瀬良雄の研究に着目し、その理論の普遍性を検証する。

3. 研究の方法

(1) 研究体制

本研究は、系統的な関係のない三言語、中国、日本、フランスの方言を対象とした対照的研究を展開するため、それぞれの国の言語地理学に最もよく通じた研究者を代表者・分担者とした。中国語方言：岩田 礼(研究代表者)、石汝杰(研究分担者)；日本語方言：大西拓一郎(研究分担者)、中井精一(研究分担者)；フランス語方言：川口裕司(研究分担者)。このほか、第二年度から毎回の研究会に沢木幹栄を招いて、ヨーロッパの研究史や LAJ にまつわる話題提供をしていただいた。

(2) 研究素材

対照研究の素材として、全国地図は、『日本言語地図』(LAJ)、『フランス言語地図』(ALF)、『漢語方言解釈地図』(IMCD)を利用した。狭域地図は、日本の上伊那、伊賀上野、庄川・神通川流域、中国の連雲港地域、フランスのシャンパーニュ・ブリー等の方言調査データを利用した。

(3) 対照言語地理学

対照言語地図には2種類のものがある。一つは **phenomenon-based map** である。語彙項目の違いと対象地域の広さは捨象し、同一現象(例えば同音衝突、混淆など)がみられる地図を三言語間で比較するものである。この場合、分布パターン(南北対立、東西対立)が類似することが望ましい。もう一つは **item-based map** であり、同一語彙項目の地図を三言語間で比較するものである。特に方言伝播の実態解明に貢献することが期待された。

(4) 国際シンポの開催

当初から第三年度までに一定の研究成果を得ることを目標とし、成果発表の場として2018年に「地図の解釈」をテーマとした小規模の国際シンポジウムを開催することとした。この計画は、Komatsu Round-Table Conference on Geo-linguistics として2018年9月に実現した(会場：公立小松大学)。また、それに先立つ2017年8月に、国際学会 Methods in Dialectology16 が開催された

ため（国立国語研究所）、初年度の成果を発表する場として **Contrastive Geolinguistics** と題するワークショップを開催した。

4. 研究成果

主な研究成果は、研究者向けに編集・発行した研究報告書(岩田編 2020)及び **Komatsu Round-Table Conference on Geo-linguistics** の **Proceedings** (Iwata ed. 2018)に収めている。うち、岩田編(2020)は近日中に Web 公開の予定である (<http://chinesedialectgeography.jp/>)。Iwata ed. (2018)掲載の各論文は、個別に公開済み又は公開予定であるが、下記でその一部を紹介する。

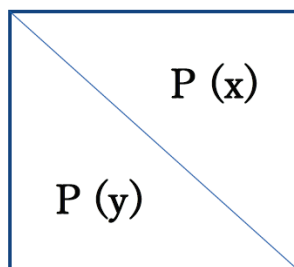
(1) Phenomenon-based map

当初掲げた“対照言語地図”については、各調査の原資料に基づいて改めて方言地図を作成するには様々な困難が付随することが判明したため、分布パターンの類似性に着目した簡略図を作成することで、異なる言語の対照による「地図解釈の定式化」という目的を効率よく達成することにした。このアイデアは、馬瀬(1992)で示された図式化を継承するもので、岩田(2017)でいくつかの例を示した。次の例は、長野県のある村落(左)と華北で(右)で名称とモノに関する相補分布が形成されたケースである(馬瀬 1992、IMCD2009:Map27,29,39 による)。いずれも在来の“もんぺ”ないし“そらまめ”があった所へ、西部から新種がもたらされたことが同音衝突の危機を招いた。この危機は在来の“もんぺ”と“そらまめ”に別の名称を与えることで回避され、長野県では東西の“フンゴミ”が、華北では東西の“大豆”がモノについて相補分布を形成する結果となった。

フンゴミ (もんぺ)	フンゴミ (わらの長靴)	大豆 (そらまめ)	大豆 (だいず)
	イッコギ (もんぺ)	黄豆, 白豆 (だいず)	

フンゴミ(日本)と大豆(中国)

岩田編(2020)に収める岩田の“**Contrastive Geolinguistics: Introduction**”と題する論文(**Methods in Dialectology 16**での報告に基づく)では、日本語、中国語、フランス語の同音衝突回避例がいずれも馬瀬(1992:56-58)で示された下記の図式化と合致することを示した。但し、境界線の両側のPは同音ではないこともある。



(2) 語彙変化の普遍性、個別性と解釈の妥当性

上記のように、異なる言語間で共通する現象が存在し、分布パターンの類似性に着目することで解釈の妥当性を保証できることを確認した。また、解釈の妥当性を主要テーマとして開催した **Komatsu Round-Table Conference** では、招待講演者であった **Sirivilai Teerarojanarat** (タイ)、松丸真大などが地理情報システム(GIS)の応用によって、検証可能な解釈が可能であることを示した。同会議では、川口が“**What the ALF does not tell us?**”と題する論文において、ALFの調査データそのものの妥当性に着目し、その後行われた調査と比較して、ありうる変化の可能性について論じた。

一方、各言語の特質を反映して、ある言語の方言のみに適用できる解釈もあることは当然予想されたことである。Iwata ed. 2018に収めた岩田論文“**Parallelism in lexical change across languages: the case of time words in Chinese and French**”は、中国語とフランス語の時間詞の変化を対照的に考察したものである。両言語で日にちを表した *ri* と *di* はいずれも北方地域で衰退した点で共通するが、*di* が最後まで残ったに対して、北方中国語の *ri* は“今日”や“明日”を表す語形で消失に向かった挙句、指示代名詞への類推により語尾に量詞の *ge* を取るに至った。中国語の語彙変化では類推変化が多く、これは形態変化を欠くこの言語の特性であると考えられる。岩田(2020)では、“明後日”、“一昨日”、“朝”、“夜”を表す語形について類推変化を論じた。

(3) 術語とその内容の再検討

語彙変化をもたらす“民間語源”、“混淆”、“類音牽引”、“同音衝突”等の要因については、馬瀬(1992)などで定義されているが、新しい調査データに基づいて再検討を進めた。岩田編(2020)に収めた大西論文「混交、民間語源、類音牽引、同音衝突」はその総括となっている(以下“混交”は“混淆”と表記する)。まず、従来混淆とされてきた現象でも、民間語源による contamination の結果であるものがあり、混淆は地理的に分布する二語形が衝突して生まれた word blending に限定すべきである。類音牽引も民間語源が介在することが多く、このタイプは“有縁性類音牽引”と呼んで、意味の介在を伴わない“無縁性類音牽引”と区別すべきである。同音衝突は上記 P(x)/P(y)の相補分布として示したように、類音牽引などによってもたらされる衝突が回避された結果である。なお、Komatsu Round-Table Conference での遠藤光暁の発表(Iwata ed. 2018 所収)は、アジア言語地図の制作過程において、言語地理学が発見したこれらの要因が各地で見られることを報告している。

(4) Item-based map

同一項目を対象とした三言語の比較例として“ジャガイモ”を取り上げた。これは事物の導入に伴う語形の発生時期が三言語で近く、その後の変化のタイムスパンがほぼ等しいことに着目したためである。岩田編 2020 に岩田、川口、中井による報告要旨(Methods in Dialectology 16 での報告)を掲載した(うち川口論文は Kawaguchi2018 として公表済)。フランス語の pomme de terre (apple of earth) 式の語形が中国語にもあり(“土豆”、“地蛋”など)、日本語の“ジャガイモ”のような伝来元を示す語形がフランス語や中国語にもある(“Canada”、“荷蘭薯”など)といった発想の共通性が存在する一方で、事物の伝播経路、生産量と消費量等、言語外的要因の差異が言語間の差異及び言語内部での地域差を生んだと考えられる。岩田は、中国語方言に見られる外来系語形(“馬鈴薯”(マレーイモ)、“洋芋”など)と土地系語形(“土豆”、“地蛋”など)の南北対立が、ジャガイモ栽培が盛んでない地域と盛んな地域の差異に対応すると推定した。また、中井は、日本語方言について事物の伝播に伴う語形の飛び火伝播の可能性を指摘した。

(5) 中国語方言地図の公開等

従来、LAJ や ALF の地図画像はネット上で公開されていたが、中国語方言については曹志耘主编(2008)などが紙版しか利用できなかった。通言語的な対照研究を促進するために、岩田礼編『漢語方言解釈地図』(白帝社、2009年)の地図と解説を2019年12月にウェブ公開した。その結果、中国及び台湾から予想をはるかにこえる反響があった。また、石汝杰は W.A.Grootaers 著『漢語方言地理学』(2003年初版、2012年再版)の校訂作業を進め、同書は2018年10月に改めて上海教育出版社から出版された。岩田は、柴田(1969)の中国語訳である崔蒙訳『言語地理学方法』(商務印書館、2018年9月)の出版に協力した。

(6) まとめ

本研究では、方言のフィールドを異にする研究者が共通するテーマに共同で取り組んだ。なお問題提起にとどまっている課題も多いが、それらは言語研究の一領域としての方言研究が今後、異分野の研究と連携しつつ発展していく可能性を示すものである。

[References]

- 曹志耘主编(2008)『漢語方言地図集』、商務印書館。
Grootaers, Willem, A.(2003) 石汝杰、岩田礼訳『漢語方言地理学』、上海教育出版社(増補新版:2012年;改訂版:2018年)。
岩田礼(2009)『漢語方言解釈地図』、白帝社。
岩田礼(2012)『漢語方言解釈地図 続集』、好文出版。
岩田礼(2017)「語彙変化に関わる言語地理学的要因の再検討」、『方言の研究』3、185-215。
岩田礼(2020)「漢語方言における語彙変化の特徴:類推の役割」、『国際文化』2号、公立小松大学、3-27。
岩田礼編(2020)『語史再構における言語地理学的解釈の再検討—類型的定式化の試み』、平成28-31年度科学研究費・研究成果報告書、著者:岩田礼、大西拓一郎、川口裕司、中井精一、石汝杰、沢木幹栄。
Iwata, Ray ed.(2018) *Proceedings, Komatsu Round-Table Conference on Geo-linguistics, September 8 - 9, 2018, Komatsu University, Authors: André Thibault, M.R. Kalaya Tingsabadh, Sirivilai Teerarojanarat, Ray Iwata, Yuji Kawaguchi, Takuichiro Onisi, Chitsuko Fukushima, Michio Matsumaru, Mitsuaki Endo.*
Kawaguchi, Yuji (2018) Pomme de terre “potato” in French –A Geolinguistic Analysis of Lexical Variation, *Flambeau* 43, 38-52, 2018. (<http://repository.tufts.ac.jp/bitstream/10108/91130/1/Flambeau+43-3.pdf>)
馬瀬良雄(1992)『言語地理学研究』、櫻楓社。
柴田武(1969)『言語地理学の方法』、筑摩書房。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計28件（うち査読付論文 15件 / うち国際共著 8件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 岩田 礼	4. 巻 2
2. 論文標題 漢語方言における語彙変化の特徴：類推の役割	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際文化（公立小松大学）	6. 最初と最後の頁 3-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Seimiya Takamasa, Ito Reiko and Kawaguchi Yuji	4. 巻 44
2. 論文標題 A Sociolinguistic Analysis of the Indefinite Pronoun ON in Northern France: Evidence from the Atlas Linguistique de la France	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Flambeau	6. 最初と最後の頁 135-148
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 中井精一	4. 巻 1
2. 論文標題 河川流域の地域特性と方言	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Landscapes of World Dialectology, 韓国慶北大学李相揆教授退官記念論文集	6. 最初と最後の頁 535-555
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Onishi Takuichiro	4. 巻 4(2)
2. 論文標題 On the Relationship of the Degrees of Correspondence of Dialects and Distances	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Languages	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.3390/languages4020037	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 大西拓一郎	4. 巻 38(12)
2. 論文標題 言語変化・方言分化が起こりにくいところ 方言地図からさぐる	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本語学	6. 最初と最後の頁 48-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石 汝杰	4. 巻 26-2
2. 論文標題 明清時代の呉語人称代詞“大家”	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 熊本学園大学文学・言語学論集	6. 最初と最後の頁 63-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川口裕司	4. 巻 22
2. 論文標題 フランス語における「雌馬jument」再考	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 語学研究所論集 (WEB版)	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大西拓一郎	4. 巻 1
2. 論文標題 方言語彙の分布の変動	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 小林隆編『方言の語彙 日本語を彩る地域語の世界 (シリーズ日本語の語彙9)』(朝倉書店)	6. 最初と最後の頁 116-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西拓一郎	4. 巻 37 (9)
2. 論文標題 交易とことばの伝播 とうもろこしの不思議を探る	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本語学	6. 最初と最後の頁 36-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中井精一	4. 巻 4
2. 論文標題 語の受容と社会的機能	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 方言の研究	6. 最初と最後の頁 99-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中井精一	4. 巻 1
2. 論文標題 日本語敬語：その地域バリエーションと富山県	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『人文知のカレイドスコープ』(桂書房)	6. 最初と最後の頁 36-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kawaguchi Yuji	4. 巻 43
2. 論文標題 Pomme de terre "potato" in French -A Geolinguistic Analysis of Lexical Variation-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Flambeau (Tokyo University of Foreign Studies)	6. 最初と最後の頁 38 -52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kawaguchi Yuji	4. 巻 17
2. 論文標題 Reflexion geolinguistique sur le mot sel	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Geolinguistique (Centre de Dialectologie, GIPSA-lab, UMR5216, Universite Grenoble Alpes)	6. 最初と最後の頁 7-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 劉 艶, 岩田 礼	4. 巻 49-4
2. 論文標題 山西中部方言“兄”和“姉”同音衝突研究	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 雲南師範大学学報 (哲学社会科学版)	6. 最初と最後の頁 26-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 岩田 礼	4. 巻 32-6
2. 論文標題 方言地図九幅--“伯父”“伯母”等親屬稱謂在蘇皖滬的地理分布--	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 徐州工程学院学報 (社会科学版)	6. 最初と最後の頁 45-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 大西拓一郎	4. 巻 1
2. 論文標題 言語変化と方言分布 方言分布形成の理論と経年比較に基づく検証	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 大西拓一郎編『空間と時間の中の方言 ことばの変化は方言地図にどう現れるか』(朝倉書店)	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西拓一郎	4. 巻 114巻2号
2. 論文標題 方言は生きている 混ざることによる変化	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 学鏡	6. 最初と最後の頁 18-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西拓一郎	4. 巻 3号
2. 論文標題 方言形成論序説 言語地理学の再興	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 方言の研究	6. 最初と最後の頁 5-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Onishi, Takuichiro	4. 巻 1
2. 論文標題 The Relationship between Area and Human Lives in Dialect Formation	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Long papers from 7th Congress of the International Society for Dialectology and Geolinguistics (SIDG)	6. 最初と最後の頁 274-289
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 中井精一	4. 巻 1
2. 論文標題 日本語敬語の多様性とその変化	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 大西拓一郎編『空間と時間のなかの方言』(朝倉書店)	6. 最初と最後の頁 96-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石 汝杰, 黄明明	4. 巻 24-1
2. 論文標題 馮夢龍編《山歌》方言口語詞彙集	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 熊本学園大学文学・言語学論集	6. 最初と最後の頁 83-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩田 礼	4. 巻 1
2. 論文標題 中国における「方言」 境界と越境	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 言語文化の越境、接触による変容と普遍性に関する比較研究	6. 最初と最後の頁 11-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩田 礼	4. 巻 3
2. 論文標題 語彙変化に関わる言語地理学的要因の再検討	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 方言の研究	6. 最初と最後の頁 185-216
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西拓一郎	4. 巻 36-2
2. 論文標題 方言の動詞否定辞過去形に見る日本語の重層性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本語学	6. 最初と最後の頁 14-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yuji Kawaguchi	4. 巻 24-2
2. 論文標題 How Can We Depict Standardization in the Linguistic Atlas? Case Study of Champagne and Brie (ALCB)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Philologica Jassyensia	6. 最初と最後の頁 237-250
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yuji Kawaguchi	4. 巻 1
2. 論文標題 Evolution ou variation? - Particules negatives dans les textes anglo-normands	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Phraseologie et profils combinatoires : lexique, syntaxe et smantique, Lexique, syntaxe et semantique. Hommage Peter Blumenthal	6. 最初と最後の頁 263-275
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 中井精一	4. 巻 11
2. 論文標題 方言分布与語言外要素	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 南方語言学 (Jinan大学漢語方言研究中心)	6. 最初と最後の頁 49 - 57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計26件(うち招待講演 6件/うち国際学会 14件)

1. 発表者名 大西拓一郎
2. 発表標題 地名と人名の地理的關係 行政域名と名字に基づく検証
3. 学会等名 日本地理言語学会第1回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清宮貴雅, 伊藤玲子, 川口裕司
2. 発表標題 ALF936 01E (ガチョウ) の言語地理学的分析
3. 学会等名 日本地理言語学会第1回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中川亮, 鈴木拓真, 川口裕司
2. 発表標題 フランス語において「教会」を表す三つの語の史的変遷
3. 学会等名 日本地理言語学会第1回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大西拓一郎
2. 発表標題 日本におけるじゃがいも方言の分布と変化 弱い固有名詞の強い力
3. 学会等名 The 2nd Northeast Asian Sea Region and Humanities Networks International Conference, 釜慶大学校 (釜山市 (招待講演) (国際学会))
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岩田 礼
2. 発表標題 漢語方言における語彙変化の特徴: 時間詞二題
3. 学会等名 日本中国語学会「中国語学セミナー」, 東京大学本郷キャンパス (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Iwata, Ray
2. 発表標題 Parallelism in lexical change across languages
3. 学会等名 Komatsu Round-Table Conference on Geo-linguistics, Komatsu University (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kawaguchi, Yuji
2. 発表標題 What the ALF does not tell us
3. 学会等名 Komatsu Round-Table Conference on Geo-linguistics, Komatsu University (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Onishi, Takuichiro
2. 発表標題 Japanese dialectal words for imported produce that include foreign place names, especially nanban, "southern countries"
3. 学会等名 Komatsu Round-Table Conference on Geo-linguistics, Komatsu University (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kawaguchi, Yuji
2. 発表標題 Le francais par-dela les frontieres : Temoignages et rencontres autour de Leila Slimani
3. 学会等名 Paneliste du symposium, Universite Waseda (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岩田 礼
2. 発表標題 詞源的探討和語言地理学
3. 学会等名 韓国中国語言学会（ソウル大学）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Onishi, Takuichiro
2. 発表標題 On the relationship of the degrees of correspondence
3. 学会等名 SIIDG Congress 9 (International Society for Dialectology and Geolinguistics), Lithuania (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大西拓一郎
2. 発表標題 方言分布・言語地図データベース 時空間情報を持つ言語データ
3. 学会等名 第23回公開シンポジウム 人文科学とデータベース(大阪府立大学)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大西拓一郎
2. 発表標題 方言の生まれるところ
3. 学会等名 国立国語研究所第12回NINJALフォーラム
4. 発表年 2018年

1 . 発表者名 Iwata, Ray
2 . 発表標題 Contrastive Geo-linguistics: its purpose and method
3 . 学会等名 Methods in Dialectology XVI, Workshop 4 : Contrastive Geolinguistics (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Iwata, Ray
2 . 発表標題 Item-based Contrastive Map -Potato (馬鈴薯) in Chinese-
3 . 学会等名 Methods in Dialectology XVI, Workshop 4 : Contrastive Geolinguistics (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Kawaguchi, Yuji
2 . 発表標題 Lexical change and Dialect Distribution -Potatoes in French-
3 . 学会等名 Methods in Dialectology XVI, Workshop 4 : Contrastive Geolinguistics (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Nakai, Seiichi
2 . 発表標題 Extralinguistic factors in linguistic change -Potatoes in Japanese-
3 . 学会等名 Methods in Dialectology XVI, Workshop 4 : Contrastive Geolinguistics (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1. 発表者名 Onishi, Takuichiro
2. 発表標題 Reconsideration of blending change in Kami-Ina dialect
3. 学会等名 Methods in Dialectology XVI, Workshop 4 : Contrastive Geolinguistics (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kawaguchi, Yuji and Onishi, Takuichiro
2. 発表標題 Standardization and distance
3. 学会等名 Methods in Dialectology XVI, Workshop 4 : Contrastive Geolinguistics (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川口裕司
2. 発表標題 フランス語 SEL「塩」の語形変化 言語地理学的再考
3. 学会等名 日本ロマンス語学会第55回大会, (神田外語大学)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石汝杰
2. 発表標題 明清時代吳語的疑問詞和疑問句
3. 学会等名 第3届吳語語法學術研討会(復旦大学) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岩田 礼
2. 発表標題 類推与牽引対詞彙变化的作用 以漢語方言的時間詞為例
3. 学会等名 24th Annual Conference of International Society of Chinese Linguistics (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 大西拓一郎
2. 発表標題 方言区画論と言語地理学
3. 学会等名 語言地理類型論国際研討会 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中井精一
2. 発表標題 日本地理語言学及其变容 - Glottogram
3. 学会等名 第七屆嶺南漢語方言研究的理論与实践研討会 (招待講演)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 大西拓一郎編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 360
3. 書名 空間と時間の中の方言 ことばの変化は方言地図にどう現れるか	

1. 著者名 大西拓一郎	4. 発行年 2016年
2. 出版社 大修館書店	5. 総ページ数 204
3. 書名 ことばの地理学 方言はなぜそこにあるのか	

1. 著者名 大西拓一郎編、中井精一等著	4. 発行年 2016年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 320
3. 書名 新日本言語地図	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	川口 裕司 (Kawaguchi Yuji) (20204703)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 (12603)	
研究分担者	大西 拓一郎 (Onishi Takuichiro) (30213797)	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・言語変化研究領域・教授 (62618)	
研究分担者	石 汝杰 (Shi Rujie) (50278149)	熊本学園大学・外国語学部・教授 (37402)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	中井 精一 (Nakai Seiichi) (90303198)	富山大学・人文学部・教授 (13201)	
研究 協 力 者	沢木 幹栄 (Sawaki Motoei)	信州大学・名誉教授 (13601)	